

8 中皮腫センター



中央診療部門として「中皮腫センター」の設立3年目。外来機能を拡大し、呼吸器内科及び呼吸器外科のスタッフが共同で運営・診療に従事。特に胸膜中皮腫および石綿関連疾患に対する診療を重点的に行う。ハイボリュームセンターとして、希少がんである中皮腫疾患の集約の責務を果たす。入院・治療への移行は、呼吸器内科、呼吸器外科との連携をすみやかにし、診療を進めている。症例の検討には、放射線診断部、放射線治療部、病理学(分子病理部門)、病院病理部と合同検討会を毎週定期開催し、全学あがりの協力体制で診療に取り組んでいる。国内では今後も当面の間、アスベスト関連疾患・中皮腫の増加が予想され、中皮腫センターが担う社会的責務は重く、国内随一の拠点としての期待を背負って今後も活動を強化する。

【診療内容・専門分野】

(1)胸部悪性腫瘍、アスベスト関連腫瘍(胸膜中皮腫、肺癌):診断及び治療方針は、合同カンファレンス(呼吸器腫瘍評議会、呼吸器病態・画像・病理セミナー)において各分野のエキスパート同士で検討する。治療に関しては、臨床情報、病理学的背景、合併症の有無、全身状態、社会的背景を総合的に考慮し、各患者さんに最適な治療法を提供する。日本石綿・中皮腫学会(JAMIG)の中心メンバーとして、今後も中皮腫に関する多施設共同臨床試験を企画・参加し、新しい診断・治療法の開発に貢献する。医療福祉の面では、アスベスト関連の職業歴のある労災申請や、職業歴のない石綿救済法申請に準拠し、医療社会福祉部との協力のもと対応する。全国から紹介・セカンドオピニオンを随時受け付けており、経験豊富なシニアスタッフが対応する。

(2)アスベスト関連良性疾患:石綿肺、良性石綿胸水、びまん性胸膜肥厚、円形無気肺等のアスベスト関連良性疾患・胸膜プラークについては、悪性腫瘍の併発の有無を確認する。定期的な経過観察を厳重に行い、病変の出現時には適切に診断・治療へすすめる。

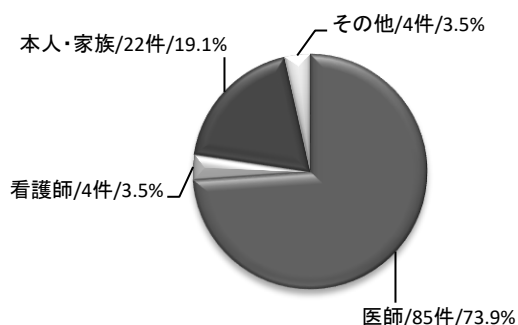
(3)その他の胸部腫瘍(胸部悪性疾患、縦隔腫瘍など):中皮腫以外の縦隔腫瘍についても門戸を広げて、胸部悪性腫瘍にたいして診療する。これらの疾患についても呼吸器腫瘍評議会において十分に検討を行い、適切な診断・治療を提供する。

8-1 年度別延受診者数

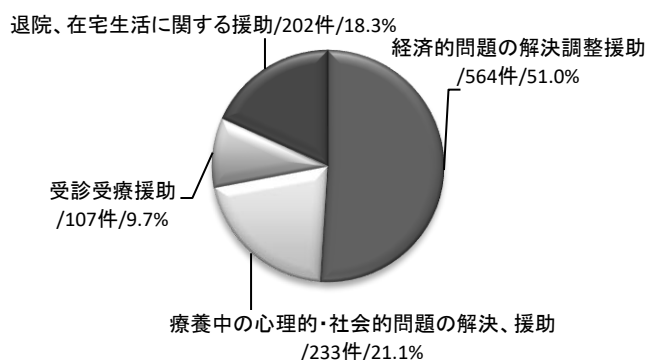
(人)

区分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2019年度 構成比率(%)
手帳健診	554	549	512	490	444	52.1
西宮・尼崎市健診	194	180	153	217	272	31.9
アスベスト健診	24	25	64	50	45	5.3
院外紹介	64	104	48	71	43	5.0
院内紹介	3	2	6	6		
セカンドオピニオン	14	21	10	12	3	0.4
医療相談			2			
その他	39	32	49	64	46	5.4
合計	892	913	844	910	853	100.0

8-2 2019年度相談・支援活動・紹介経路の構成比率(合計115件)



8-3 2019年度相談・支援活動・援助内容の構成比率(合計1,106件)



8-4 2019年度診断名の構成比率(合計853件)

